

カリキュラムづくりと総合学習部会

研究主題

豊かで創造的なゆとりある教育課程の編成と実践

I 研究内容

1 研究の方向性

今、子どもたちの学力向上に対する期待が、学校内外から広く求められている。私たちは、「子どもたちに本当につけさせたい学力」とは何かをあらためて問い直し、自主創造的な教育実践を積み重ねることによって、これらの声に対する結果を出していかなければならない。子どもたちに「ゆたかな学び」を保障していくために、質の高いカリキュラムや実践を創造していくことは、私たち教職員の使命である。子どもの実態をふまえ、教材の活用や授業の展開を徹底的に検討することに加え、カリキュラムや授業プランを工夫して、その内容や方法を創り変えていく必要がある。すべての子どもたちに、学び合いの中で「学びの意欲」を喚起させる「わかる授業」「楽しい授業」を創造するために、日々、目の前にいる子どもたちの実状に合わせたカリキュラムを追究し続けていかなければならない。

本部会ではこれまでに、主にカリキュラム編成の工夫について総合的な学習の時間を中心に研究を進めてきた。部会員全員がそれぞれの実践を持ち寄って意見交換を行い、総合的な学習の時間における指導の工夫や可能性について討議を重ねてきた。新学習指導要領においては、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成」によって学力向上を図ることが示されているが、時間数が削減された総合的な学習の時間においては、各教科で学んだ知識や能力を生かすことによってその成果を高めることが期待されている。そこで本部会においては、総合的な学習の時間だけにこだわらずに他の教科での実践も視野に入れ、自主編成によるカリキュラムの工夫について研究を進め、検証結果を日常実践に還元していくことを目指している。

授業実践においては、多角的な視点をもって教材や単元を分析しながら「どのように教えたらよいか。」「どういう授業を展開したら効果的か。」を模索していくことを基本とし定められた指導計画によるものではなく、「教科書”で”教える。」という意識を大切にしながら、自主創造的学習プランを策定して実践を進めていく。

そのために、次の3つの視点を重視して、成果の検証にあたる。

- (1) 授業（単元）における、「子どもにつけさせたい力」は何かを明らかにする。
- (2) 授業（単元）において、授業者が「自主編成した部分はどこか。」「工夫したところや作り直した点はどこか。」を明らかにする。
- (3) 授業（単元）のふり返りや分析を丁寧に行い、成果と課題を明らかにする。

授業の分析においては、授業の様子を撮影した画像・映像の効果的な活用と、子どものノート・作品・感想記述などを時間をかけて多角的に分析していくことによって、子どもの変容をみとり、成果と課題を明らかにしたい。本部会としてはすべての子どもたちの「学びたい」という意欲を引き出す工夫とすべての子どもに「豊かな学び」を保障していくことによって、結果として子どもの学力の向上につながるように、内容や方法を捉え直す努力を積み重ねていきたい。

2 研究授業と各教科などにおける個人実践発表

◎研究授業「ごみの学習から見つけたぎもん」	東雲小：山縣 重人 教諭
○合同自立活動・生活単元学習について	塩山南小：向山 有紀 教諭
○勝沼ワインの歴史～土屋と高野～について	勝沼中：天野秀太郎 教諭
○甲州市の自然と文化について調べよう	大和小：小野 紀男 教諭
○特別支援学級の実態と学習活動について	塩山南小：田口ひろみ 教諭
○よりよい学校生活・集団生活の向上	勝沼中：丹澤基予子 教諭
○「世界となかよし」及び「カリキュラムマネジメント」について	
	塩山南小：小椋 規雄 教諭
○無セキツイ動物の体のづくり	勝沼中：桐原 誠之 教諭
○はっけん！まち（神金）へとびだそう！	神金小：深味 朝日 教諭
※指導助言 松里小：古屋 宏記 教頭	勝沼小：新海 直仁 教頭

II 成果と課題

1 成果

- (1) 研究の対象が「総合的な学習の時間」とらわれずに他教科に広がったことにより、様々な教科などのカリキュラム（単元構成）の工夫にふれることができた。部会員相互による実践交流を通して、自主編成的なアイデアや具体的な指導法を還流することができ、研究の広がりを実感することができた。
- (2) 研究授業においては、子どもの実態をふまえた教材開発や効果的な単元の構築を模索することができた。指導者による計画的な教材分析の有効性と、目指す子ども像に応じた確かな指導体制をもつことの大切さを再認識することができた。
- (3) 授業分析において、子どもの作品や感想記述（ワークシート）に時間をかけて多角的に分析することにより、子どもの変容の読み取りにいかすことができた。

2 課題

- (1) 「子どもにつけさせたい力」（育てたい力）は何かを更に子どもたちにもわかりやすく明らかにするとともに、子どもの主体的な学びを喚起できるような魅力ある単元全体の構成を模索していく必要がある。
- (2) 授業後の生徒の変容について更に検証できるとよいので、生徒のワークシートやノート記述があるとよいと考える。

（部長 天野秀太郎）